

「松田正義文庫」整理報告

吉 岡 義 信

1. はじめに

本誌第3号において、平成8年に寄贈を受けた故種友明先生の蔵書整理の報告をいたしました。今回は、その後に寄贈を受けた故松田正義先生の蔵書整理の報告をすることにより、一連の作業の締め括りとしてたい。

松田正義先生は、昭和9年旧制日大法文学科を卒業の後、同12年日大法文学部講師、同18年東京都立女専教授、同19年大分青年師範教授、同24年大分大学教授となり、同44年定年退職され、平成9年5月に亡くなりました。先生は方言を中心とした言語学の学者であられ、県方言研究会会長を務められていた。先生の蔵書は、「県内で分散させずに活用してほしい」との遺志により、平成9年10月先生の教え子でもある切石文上先生を通じ本学に寄贈されることになりました。蔵書は約1万点余あり、図書、雑誌は勿論、新聞の切り抜き、ノート、方言に関する手書きの調査票など、非図書資料も多く含まれており、貴重なコレクションとなっている。

蔵書の整理はまず図書から始めることにし、平成10、11年の両年度で5,051冊を整理しました。整理の手順としては、「種友明文庫」の時と同様アルバイト学生1名に納入処理、支払い処理、学術情報センター（現国立情報学研究所）からの書誌データの取り込み、蔵書印の押印作業を行い、その他の作業は職員が行いました。

2. 蔵書構成

整理された図書の構成を日本十進分類法の主類表により分類してみると、0（703冊）、1（247冊）、2（557冊）、3（647冊）、4（34冊）、5（8冊）、6（16冊）、7（128冊）、8（1,695冊）、9（1,016冊）となりました。

このことから8の語学、9の文学が圧倒的に多く、先生の専門性が顕著に表れています。次に多い0の総記では、まとまったものとして「平凡社世界大百科事典」、「故事類苑」、「国書総目録」などの事典、目録類、「日本随筆大成（1期から3期、続）」、「群書類従（正・続・続々）」、「漢文叢書」、「新釈漢文大系」などの全集・叢書類が多く見受けられる。3の社会科学では国語科教育に関するものが多いのは先生の専門からすれば当然である。民俗学関係では「民俗民芸双書」、「定本柳田国男集」、「日本民俗学大系」などの全集・叢書類、また民話・伝説関係のものが多い。2の歴史については、日本および中国の通史、また伝記、地理関係のものが多い。1の哲学・宗教では、日本および中国思想関係のものも多く見受けられる。

次に8の語学、9の文学について細分してみると以下ようになります。

80（141冊）、810（556冊）、811（45冊）、812（31冊）、813（146冊）、814（71冊）、815（104冊）、816（59冊）、817（2冊）、818（425冊）、82（77冊）、83（13冊）、84（11冊）、85（2冊）、86（9冊）、88（1冊）、89（2冊）

90 (88冊)、910 (81冊)、911 (188冊)、912 (14冊)、913 (138冊)、914 (51冊)、915 (13冊)、916 (6冊)、917 (4冊)、918 (251冊)、919 (20冊)、92 (140冊)、93 (10冊)、95 (3冊)、98 (3冊)、99 (2冊)

これから見てもわかるように、語学で最も多いのは810の日本語で、この中でも叢書・全集類と論文集類が大部分を占めています。ついで818の方言で北海道から沖縄までほぼ全国のものが収集されています。つぎに80の言語、815の文法・語法の順になっています。文学では918の全集が最も多く、「日本古典文学大系」といった全般にわたる全集がほとんどで、個人全集としては「漱石全集」のみである。911の詩歌では万葉集関係のものが多くなっている。また中国文学関係が多いのも特色となっている。

3. おわりに

以上、見てきたように松田先生の蔵書は、種先生と同様に国語・国文学関係の図書が圧倒的に多く、内容的にも重複するものが多くあるが、お二人の蔵書を31号館（大学院研究棟）にまとめて配架したことでより充実したものとなり、教員・学生にとって今後ますます利用価値が高まるものと思われる。

(よしおか・よしのぶ 別府大学図書館参事、非常勤講師)